

新潟・上越市立城北中学校

教育環境改善 プロジェクト 確かな学力のために

▶▶6

松下教育研究財団
第34回実践研究助成

「特別研究指定校」編

ICTの活用を研究課題に織り込む学校が多い中で、新潟県上越市立城北中学校(中野敏明校長、生徒481人)は人間力を育成するカリキュラム開発に重点を置いて助成申請した。研究課題は「夢や目標をもち、主体的に活動する生徒を育むカリキュラムづくり」と実践し地域と進めるキャリア教育を中核にしながら、同校のキャリア教育の開始は4年前にさかのぼる。だ

地域巻き込みキャリア教育

が、研究代表者の大塚啓教諭(写真)は「学校内で授業や部活動を通してやることに限るとは言えず、地域の子ともたちを自分たちで育てよう」と



しさを口にする。生徒たちの現状を見てみると、地域の大人とのかかわりが希薄で、地域に対する理解がなかなか深まらない。自立心が育っていない生徒も少なからず見受けられるというのが同教諭の受け止め方

店舗経営など通じ人間力培う

する当事者意識も不十分だという。課題克服に向けてどのような活動を展開するのか。同校は保護者、地域を巻き込んで「スクールコミュニティ城北」を創出し、学校教育の基盤をつくるという構想を描いている。そのために、学校内においては教科・道徳・特活・総合の統合カリキュラム、校外では社会貢献を中心とした地域交流活動カリキュラムを両輪にする計画だ。統合カリキュラムの内容はユニークだ。この地域には街の空き店舗を借りて店舗経営を実地に学習する「チャレンジショップRikka」があるが、城北中の1年生は他の小学校、商業高校、上越教育大学と連携しての運営に参画し、店舗の内装、商品開発、宣伝、販売などを担当する。2年生は平日に5日間連続で職場体験。3年生は進学したい上級学校を訪問体験する。地域の職業人を招いて出前授業なども計画している。「地域には、共に子どもたちを育てるという精神を生み出してほしいし、子どもたちも地域に見守られ、褒められれば、自尊感情が高まるのではないだろうか」。大塚教諭の期待は大きい。

次回は21日付に掲載